

ミネベア池上プラムガーデン

No. 19-019-2016作成
新築
集合住宅

発注者	ミネベア株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	(株)安藤・間一級建築士事務所	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	(株)安藤・間	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

土地の歴史継承、下町住宅街に調和した社宅・社員寮

周辺環境

23区最大の面積を持つ大田区。中でも蒲田周辺、特に計画地周辺は道路幅も狭く、戸建住宅や低層のマンションやアパートが密集し、住環境としての静けさを保っています。新規の開発計画は多くなく、住人の年齢層が高めの歴史の古い住宅地です。大田区では、蒲田地域を、区内の他地域と比較して緑の少ないエリアと位置づけ、池上本門寺～蒲田駅間の呑川沿いを緑道と定めるなど緑化推進が望まれています。

計画主旨

当計画は、ミネベア社宅・社員寮として求められる姿かたちを考察するところから始めました。ミネベア理念である五つの心得を踏襲した新社員寮は、暮らす人が誇りを持てる空間であり、建物が醸し出す空間は地域社会にも親しみをもって受け入れられることを目指しています。



外観



町並みに溶け込む建物ボリューム

2～3階の個人住宅が密集している地域なので、4階で無理のない高さ、平面計画としています。外観はグレー系として主張しすぎない色彩計画としました。

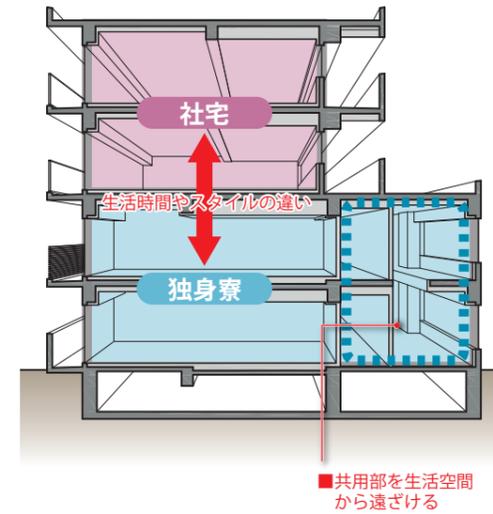


立ち寄りたくなる共用スペース
寮室の前にある共用スペース。吹き抜けがあり、北側の安定した光の奥に緑のシルエットが覗かれる他のスペースとは異質でホッとできるような雰囲気づくりを目指しました。



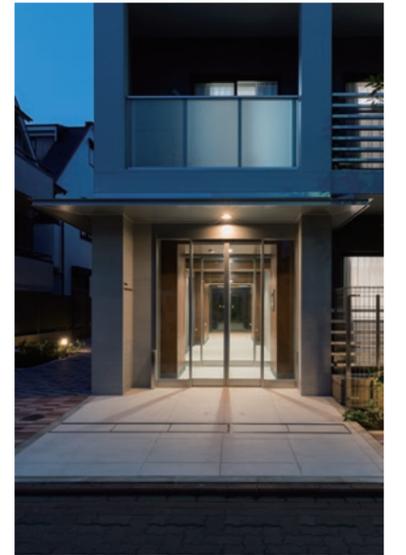
生活動線にある緑の路

緑の少ない地域なので日常生活に自然を感じられる植栽計画としました。緑地を設けられる面積は小さかったのですが視線を通さないレイアウトとして奥行きを持たせました。



2つの異なる住環境のゾーニング

用途として1つの建物の中に社宅と寮が共存するという特徴があります。生活時間やスタイルがそれぞれに違う住戸なのでエントランスを2つ設け、設置階も変え明確にゾーニングしています。



ビジネス展開するLED照明

照明は施主が現在力を入れている分野でもあるため、施主支給品も含め全ての照明にLEDを採用しています。



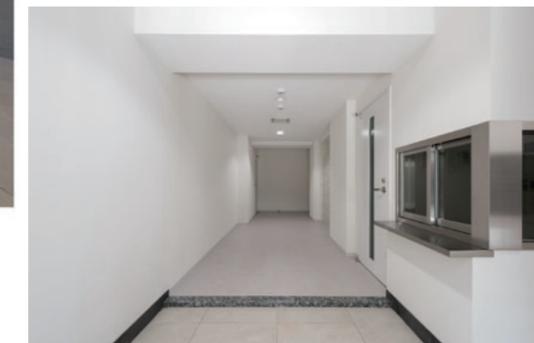
EVホールと緑の路

設計担当者

建築：弓野将義
構造：佐藤容子、村山彰宏
設備：富岡浩、磯貝直人、半田知己
電気：坂本洋二、久保島正樹



社宅側エントランス



寮側エントランス



地域に根ざしたシンボル

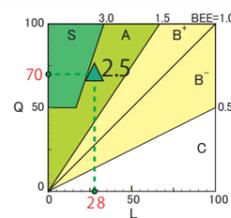
施主とこの地域の関係の歴史は長いことからこの場所に関係の深い花をイメージしたシンボルウォールを設置しています。

建物データ

所在地	東京都大田区
竣工年	2016年
敷地面積	1,700㎡
延床面積	2,170㎡
構造	RC造
階数	地上4階

CASBEE評価

Aランク
BEE=2.5
2010年度版
自己評価



主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (外構緑化)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (建物高さ抑制、まちなみとの調和をはかった色彩計画)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (LED照明、潜熱回収型給湯器、全熱交換器)
- LR2. 1. 水資源保護 (節水型便器)
- LR3. 2. 地域環境への配慮 (地域環境を考慮した建物の配置、沿道緑化)
- LR3. 3. 周辺環境への配慮 (周辺環境を考慮したサッシ等級)